

2018年頭のご挨拶

人生に降伏する生き方?

常務取締役 編集長 島田 浩

新年あけましておめでとうございます。

昨年も皆様にはご愛顧いただきましたこと、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、新年にふさわしくない話題ではあります、早く、中日一阪神一楽天で監督を務めた星野仙一さんが亡くなられました。そのお人柄に遺徳をしのぶ声がやみません。

身近でも、年末に親しいお客様であるMさんが、脳出血で急逝されました。前日まで元気にお店に来られていただけに、皆ショックを受けました。

思えば、私を今の場所へと連れてきてくれたのも、人の死でした。以前も書いたことがあります、29年前の1989年、偶然ワイドショーで見かけた俳優・松田優作氏の訃報と、その生きざまが転機となりました。彼は病を知りつつもハリウッド映画に臨み、最後まで役に没頭したのです。「きっと悔いはないのだろう」とその時思いました。「自分は今死んだら、間違いなく後悔する…」。その思いに突き動かされ、会社を辞めデザインの道を志したのです。(その道は、間もなく「自然への道」と変わりましたが、まほろばへと導いてくれました…。)

当たり前ですが、人は突然この世を去ることだってあります。この命がいつまで続くかなど、残念ながら知る由もありません。

「はたして私は十全に生き切ったと言えるだろうか? あちらの世界に戻る時、「ああすればよかった、こうしておけばよかった…」と後悔を残すことはないだろうか…。」

Mさんは、あらためてそのことに私の目を向けさせて下さいました。心から感謝とともにご冥福をお祈りしたいと思います。

そんな生き方をするにはどうすればよいかと考えていたこの正月に、お客様からご紹介いただいた『サレンダー』(マイケル・A・シンガー著)という本を読みました。著者は森の中に居を構えるヨギ(ヨガ行者)でありながら、大手IT企業のCEOにまで登りつめた人物です。

彼は学生の時、頭の中で絶えず繰り返されるたわ言を冷静に見つめる、もう一人の自分の存在に気付き、それまでの人生を一変させてしまいます。本当の自分とは何かを追求し、禅やヨガに学び、やがて頭のたわ言に左右される生き方をやめて、人生が与える課題に抵抗

することなく受け入れる実験「サレンダー・エクスペリメント」を始めるのです。

その結果、様々な共時性が起こり、理想とする森の住まいを手に入れ、瞑想センターを作り、建築業を始め、黎明期のPCを購入しプログラマーとなり、ついに従業員2000人以上を抱える一大ソフトウェア・ベンダーのCEOまで登りつめてしまいます。

自我の夢や望みを手放し、あえて人生という宇宙が目の前に与えてくれるチャレンジに身を投げ出し奉仕することで、想像もできなかった恵みがもたらされた、というのが実に面白いところです。

このように困難を受け入れることで災いが幸いに転じ、必要な時にぴったりの人材や出来事に恵まれ、人生の流れが好転するさまは、まるでまほろばを見るかのようでした。まほろばがこれまで来ることができたのは、小さな自我を捨て、大きなイノチの使命に身を投じてからこそ、そして、それに感応し、応援し、支えてくださった皆様あっての事とあらためて思った次第です。私もその中で生かされてきたのだと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。

2018年、大きな転換を迎える「何か」が起こるやもしれないとの風聞もあります。しかし、たとえ何があっても、今この瞬間に真摯に、心を込めて丁寧に、自分らしく精一杯生きることで、きっと「新しい何か」に出会わせてくれるのかもしれません。

自我を手放し、受け入れがたいことを受け入れるというのは、時に大きな葛藤と苦しみを伴うことです、それがもっと大きな、天の意思に従う事に繋がるのかもしれませんね。

大志を忘れることなく、人生の流れに逆らわないサレンダー(降伏する、放棄する)の心で、この一年取り組んでみたいと思います。

どうか皆様の日々の喜びに、わずかでも寄与することができますように願い、スタッフ一同力を合わせて励んでまいりたいと思います。何が起こるかわからない(苦笑)まほろばですが、今年もお付き合いの程いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2018年頭のご挨拶

北の大地に縄文の心を…

厚別店店長 穂積 豊仁



藤白神社

石切劔箭神社

どちらも、ニギハヤヒと関係の深い神社です。

その中には、穗積殿といつ建物があり、何か懐かしい気持ちになりました。

去年は、正月に訪れた和歌山県の藤白神社に

続いて、八月に大阪の石切劔箭神社に行ってきました。

今年は、初詣に、大阪の御靈神社に行きました。

アマテラスの荒魂として、ヤオリツ姫を祀っています。

穗積家のルーツのニギハヤヒを調べ

るうちに、この名前が出てきました。

物部氏の祖靈神でしたか、蘇我氏との戦いに敗れてこの名前は、消されていま

した。

いつの世

も、勝者によつ

て歴史は書き

換えられてき

ました。

しかし、信仰の厚い女神だったので、各地でその名前が残っています。これから女性性の時代のキーワードになりそうです。

縄文人は、母系の部族社会を築いてきたと考えられています。一万五千年もの間、環境を破壊せず戦争をしない文明を築きました。今現在の、資本主義経済中心の物質文明から、持続可能な文明への移行には、縄文のこころを持つ日本人の精神文明が必要となるでしょう。

現代の競争社会の中では、女性も巻き込まれて戦ってしまい、男性性へ傾いています。何事もバランスが大切です。

これからは、男性も女性も、内なる女性性の開花が鍵になりそうです。

この素晴らしい北の大地で自然の恵みに感謝しながら、あわすこころ、和合のこころを持って、今年一年過ごしていきたいと思います。

ありがとうございました。

2018年頭のご挨拶



本年もどうぞ宜しくお願ひ致します。